

NO! リニア

No. 165

2023年3月23日

JR東海労働組合

JR東海労HP
にアクセス



高速長尺先進ボーリングは直ちに中止せよ! 調査は詭弁! 目的は水抜き! ? その2

『より良い山岳トンネルの事前調査・事前設計に向けて（土木学会）』によると、脆弱地質で締め付け現象が発生した場合に事故に至る危険性があり、多量湧水や高圧湧水では、インナーチューブの引き抜き・挿入が困難になることが説明されています。南アルプストンネルは、まさにこの条件が当てはまります。

このような事故が発生すれば、機械を止め引き抜いて、噴出箇所に蓋をすることはできません。湧水を止めることが不可能となり、山体内部に蓄積された水がなくなるまで流失し続けることとなります。つまり、大井川の水が失われ、枯渇は免れなくなります。

新聞報道によると、ボーリングは、静岡県境の693m手前の地点まで削孔されています。「まだまだ県境まで距離があるんじゃないか」と言う人がいるかと思われませんが、破碎帯や水脈は県境を越えても繋がっているのです。水脈が県境でキッパリ分かれているわけではありません。いくら山梨県で水が出たとしても、水脈をたどれば静岡県に行き着くこととなります。

金子社長は「県境の100m手前まで削孔する」と表明しています。当たり前のことですが、水は高いところ（静岡県）から低いところ（山梨県）に流れます。削孔で出た水の元は山梨県だと言い切れるのでしょうか？

ボーリング削孔はもちろん、リニア工事そのものを中止すべきです。